

クリスマスキャンプ 2019 レポート



■12月21日(土)～22日(日) 小学校3年生から6年生を対象に1泊2日の主催事業『クリスマスキャンプ』が開催されました。一度ゼロになった積雪も、クリスマスキャンプにあわせて再び雪が降り出して、ちょうどよいホワイトクリスマスを迎える事ができました。今回のクリスマスキャンプは4名のボランティア様にご協力いただきまして、世界のクリスマスをテーマに海外の文化に触れることを目標におこなわれました。

★まず1日目は HIF (北海道国際交流センター) による海外からの留学生と一緒にクリスマスケーキ作り(デコレーション)をして、国際交流を深めました。留学生と一緒に42名の児童が9班に分かれ、スポンジケーキの土台に生クリームを塗りながら果物をはさんだり、イチゴ・チョコなどをトッピングしてデコレーションケーキを作りました。一番難しいのは氷で冷やしながら生クリームを泡立てるところです。果物の並べ方やトッピングの使い方で各班それぞれに違うデザインのケーキが完成しました。すぐにお片付けをして、おやつタイムです。みんなで完成したケーキを切り分けておいしくいただきました。そして留学生の皆さんには、プロジェクターなどを使って、母国(中国・韓国・ペルー)のクリスマスのお話をしていただきました。



最後は全員でロビーに集合、記念撮影をして、留学生のみなさんとのお別れを惜しんでお見送りをしました。



次はふるるで宿泊する際には全員が参加するルールの説明会「オリエンテーション」です。今回はみんなの手本として、数名の子に前に出て「お布団のたたみ方」を実際にやってもらいました。続いて各部屋の「生活の係」を決めます。生活リーダーの部屋長・副部屋長・食事係・お布団係を決めたら、それぞれが活動開始です。部屋長と副部屋長はみんなをまとめる為の班長会議に出席します。お布団係はシーツや枕カバーを用意したり、全員が正しく布団を使っているか注意します。食事係はほかの人より先に食堂へ行き、配膳の準備をします。部屋長と副部屋長がみんなの前で「いただきます」の号令をしたらお食事をはじめます。



★夕食後、1日目の最後のプログラムは ロシア極東連邦総合大学 函館校の副校長 デルカーチ・フョードル先生による「ロシアのお正月」のお話し会です。デルカーチ先生によると「実はロシアにはクリスマスが無い。」と言うことで、1月7日からの新年のお祝いが大切な行事だそうです。その時にはサンタクロースよりも豪華で立派な衣装を身に着けて馬そり「トロイカ」に乗って現れる「デット・マロース」が活躍するそうです。(でも、デルカーチ先生のお父さんは役者さんなので、お仕事で毎年デット・マロースの姿をするから、先生は信じていなかったそうです。) それとお正月のロシア料理ではよく

作られる『ペリメニ……日本でたとえるなら「ロシアのぎょうざ」』『オリヒエ……ロシアで有名なサラダ』なども紹介してくださいました。今の季節にロシアでよく歌われる歌も先生と一緒に歌いました。終わりに

ロシア語での親しい人とのあいさつの言葉を教えていただきお別れをしました。～『プリヴェツ……ハロー！こんにちは』『ダスイダニヤ……さようなら』『パカー……（気軽な）バイバイ』～ お風呂に入ったあと、今日一日のふりかえりをしたら、みなさん『スパコイナイノーチー……おやすみなさい』。

■2日目のはじまりはラジオ体操～朝食です。そして、お布団係や部屋長・副部屋長はじめ全員が協力し、お部屋を使用前のように戻す片づけ清掃をしたら「部屋点検」を受けます。やり直しを言われないようにみんなで一発合格を目指しました。



★「クリスマスキャンプ」の最後のプログラムは「クリスマスリース作り」です。木を編んだリングの土台に好きな材料を選んで、思い思いの飾りを付けた自分だけのクリスマスリースを工作します。紐で結べない材料でもグルーガンを使えば何でも接着することができます。上手に完成した作品と一緒にポーズ！



◆世界のクリスマス文化に触れながらみんなで楽しく過ごした「クリスマスキャンプ」でした。（ご参加の皆さんありがとうございました。）また「ふるる函館」でお会いしましょう。それでは「パカパカ～」◆